

## 第31 回定時株主総会における質疑の概要

(2020年6月19日開催)

### ●質問1

業績悪化等を理由として配当を減額している企業が多い中で当社は増配をしているが、今後の業績に自信があるという理解をしても差し支えないか。

回答（回答者 竹田社長）

配当については、当社の従来からの配当方針をもとに提案させていただいた。

今後の業績について確定的なことは申しあげられないが、単年度の経営方針も見直し、取組課題も設定し直して、全社一丸となって難局を乗り越え、積極的にチャレンジをしてみたい。

### ●質問2

株主総会の実施方法について、インターネットでの開催を検討しなかったか。また株主総会の延期をする企業もあるが延期は考えなかったのか。

回答（回答者 竹田社長）

インターネットでの開催についても議論したが、会場で出席される株主の方のプライバシーへの配慮のほか、技術的なトラブル発生の可能性等も考慮し、実施を見送った。

また従来どおり6月の開催を維持することが株主の皆様を含むステークホルダーへの影響を最小限に抑えられると考えて、延期をせず開催することとした。今後もステークホルダーの皆様のご意見を参考にさせていただきながら、株主総会の運営方法の改善について検討してみたい。

### ●質問3

4月や5月の営業の状況が厳しいことは理解しているが、直近の営業状況について細かな数値面ではなく、社長としてどのような印象を受けているか、特にリーマンショックの際と比較しての印象を聞かせてほしい。

回答（回答者 竹田社長）

6月から全面的に営業再開をしているが、地域密着型の店舗についてはお客様の戻りが早いものの、オフィスエリアの店舗の回復が遅い印象を受けている。その背景には、コロナ禍を受けてリモートワークの普及が進んだことがあると捉えている。今後、お客様の働き方や購買行動も大きく変わっていくため、実店舗とインターネット通販との連動性を高めて、ニーズの変化にタイムリーに応えることがポイントになると考えている。店頭から得られるお客様の声を聞きながら、商品を改良する等の最適な対応を進めていきたい。

コロナ禍におけるお客様の心理面への影響を考えると、リーマンショックの頃と比較して、売上回復にはより長い期間を要すると考えている。

以上